

富山県
魚津市埋蔵文化財分布調査報告3

2016年3月
魚津市教育委員会

序

山と海、そして川、大自然に恵まれた魚津市は、富山県の北東部に位置し、市の主要部は毛勝山や僧ヶ岳を源流とする片貝川により形成された扇状地上に広がっています。

県指定の史跡である縄文時代早期の桜峠遺跡や越中の戦国時代に欠かすことのできない松倉城跡をはじめ、市内の各所には先史の遺跡が数多く残されています。

過去の人々の痕跡がそのまま地中に残されている遺跡は、今を生きる私たちが、次の世代へと受け継いでいかなければならない大切な文化財です。

この大切な埋蔵文化財を保護するため、本市では平成25年度より、遺跡の詳細分布調査を実施することになり、本年度は3年目にあたります。遺跡の分布調査を実施し、その詳細を確認することは、遺跡内における開発との調整や、今後の遺跡の保存・活用において欠かすことのできない重要なことです。

この報告書が、地域の歴史を知るための一つの手段として多くの人々に活用され、地域の歴史研究と埋蔵文化財保護に対する理解に役立てば幸いです。

おわりに、調査の実施にあたり、地区の方々をはじめ関係者の方々に多大なご協力とご理解をいただきましたことに、深く感謝申し上げます。

平成28年3月

魚津市教育委員会
教育長 畠山敏一

例　　言

- 1 本書は魚津市教育委員会が国庫補助を受けて実施している、市内遺跡詳細分布調査の調査報告書である。
- 2 調査は、魚津市教育委員会が主体となり実施した。
- 3 本書は、魚津市上野方地区内の分布調査結果の報告書である。
- 4 調査事務局は、魚津市教育委員会生涯学習・スポーツ課に置き、生涯学習・文化係主任高嶋真弓、的場茂晃が調査事務を担当し、生涯学習・スポーツ課長宮崎悟が総括した。現地踏査、資料の整理、本書の執筆と編集は的場が行った。

調査担当者　魚津市教育委員会

生涯学習・スポーツ課生涯学習・文化係　主任　的場茂晃

作業員　石坂正男、小川勝広、小黒圭介、澤崎保與、山下進

整理作業員　安宅知春

- 5 現地調査にあたって、上野方地区の方々に多大なご協力、ご理解を得た。

- 6 採集遺物及び記録資料は、魚津市教育委員会が保管している。

目 次

I 位置と環境	1
II 調査の経緯	2
III 調査の概要	4
(1) 遺跡の概要	4
(2) 主な採集遺物	11
IV まとめ	13

挿図目次

第1図 平成27年度調査対象範囲（縮尺1/30,000）	3
第2図 分布調査結果概要図1（縮尺1/15,000）	5
第3図 分布調査結果概要図2（縮尺1/15,000）	10
第4図 遺物実測図（縮尺1/3）	11

表 目 次

第1表 調査対象範囲及び周辺における周知の埋蔵文化財包蔵地	2
-------------------------------------	---

図版目次

図版1 作業風景	
図版2 作業写真	
図版3 遺物写真	

I 位置と環境

魚津市は、富山平野の北東部に位置し、面積約200㎢、人口4万3千弱を数える。市内には北から順に、布施川、片貝川、角川、早月川の主要な4河川がある。北に隣接する黒部市との境をなす布施川、毛勝山（標高2,415m）や僧ヶ岳（標高1,855m）を源流とする片貝川、大平山周辺に源流をもつ角川、南の滑川市との境をなす早月川が市域を貫流し、日本海へと注いでいる。片貝川や早月川は、源流から海へ至るまでの高度差に対し、流路延長が短いことから県内でも有数の急流河川として知られている。

魚津市の地形は、立山連峰の一部である毛勝山や僧ヶ岳などの山岳地帯とその前山をなす丘陵地帯、平野部の扇状地で大部分が構成されている。山地から流れる急流河川は深い谷を形成しながら多くの土砂を運び、山地を抜けたところで扇状地を形成する。市の平野部のうち、半分以上は片貝川の扇状地である。さらに扇状地上を流れる河川の両側には河岸段丘が顕著に発達し、数段の段丘面が見られる。現在、市内には119か所の遺跡が確認されており、山城・砦を除く遺跡の多くは、この河岸段丘の発達した洪積台地上や段丘が沖積地に埋没するあたりで確認することができる。

旧石器時代の遺跡は少なく、石垣平A遺跡と早月上野遺跡の2遺跡がある。石垣平A遺跡では、貝岩の石刀等が採集されている。早月上野遺跡ではナイフ形石器や搔器等の石器が出土している。

縄文時代の遺跡には、富山県で初めて押型文土器が出土した県指定史跡の桜峠遺跡がある。また環状集落であることが確認された早月上野遺跡や天神山式土器の標識遺跡である天神山遺跡のほか、佐伯遺跡、吉野遺跡、印田遺跡等多くの遺跡が確認され、多くは縄文時代中期に属するものである。

弥生・古墳時代の遺跡は、縄文時代と異なり確認されている数が少ない。北陸自動車道の建設に伴う発掘調査で、湯上B遺跡では弥生時代後期から古墳時代前期の遺跡であることが、印田遺跡では古墳時代中期の遺跡であることが判明している。このほか、佐伯遺跡からは弥生時代後期の竪穴住居跡や方形周溝墓等が確認されている。

奈良・平安時代の遺跡には、市内で10箇所の散布地が確認されている。このうち発掘調査が行われた主な遺跡には、多数の掘立柱建物跡が確認された佐伯遺跡、古代の瓦が出土し、寺院の存在が推定されている友道遺跡、石器や製鉄関連の遺物が出土した仏田遺跡、仏田遺跡の南に位置する江口遺跡等がある。

中世の遺跡には、発掘調査で確認された吉野遺跡、佐伯遺跡、仏田遺跡、江口遺跡のほか、松倉城跡や升方城跡等の多くの山城や砦跡がある。

II 調査の経緯

これまで市内における遺跡の分布調査は、昭和48年（1973）に魚津市が富山考古学会に委託して実施した調査がある。その調査結果は『魚津市埋蔵文化財遺跡分布調査報告書』として刊行されている。その後、北陸自動車道の建設や大規模開発が魚津市郊外の洪積台地に向かうようになり、遺跡の把握が急務となつた。そのため、昭和57～59年度（1982～1984）にかけて、今後、開発が進むと思われる範囲において遺跡の分布調査が実施され『富山県魚津市遺跡分布調査概要 I・II・III』が刊行された。平成5年（1993）に富山県埋蔵文化財センターが発行した『富山県埋蔵文化財包蔵地地図』においては、市内に104か所の埋蔵文化財包蔵地が記載されており、ある程度の遺跡の分布状況が明らかにされている。

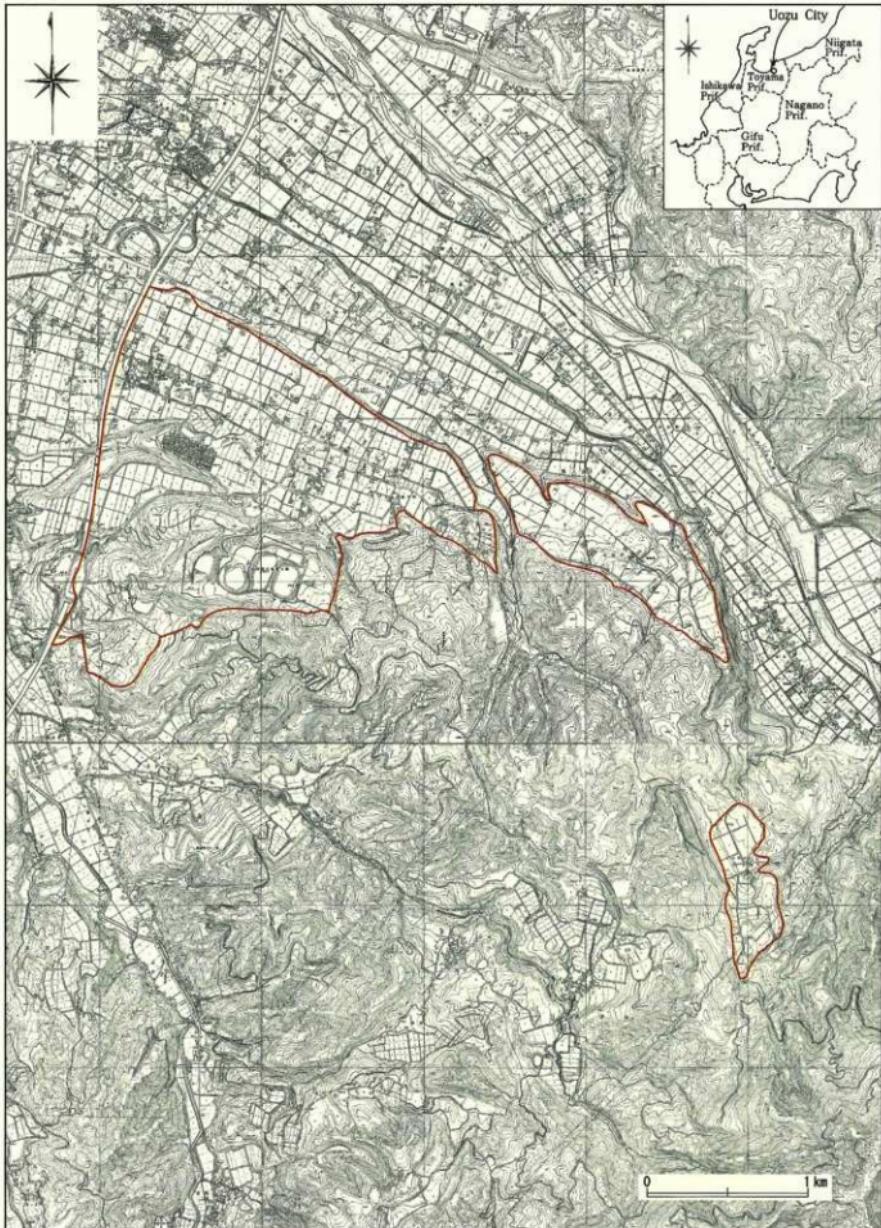
しかしながら、これまでの分布調査は主に北陸自動車道や国道8号バイパス、林道等の道路建設や大規模開発等に先立つての調査であった。そのため、ここ数年、開発行為に伴つて実施した分布調査で新たに遺跡が発見されることもあり、改めて体系的に市内の詳細分布調査を実施することとなった。

調査は、魚津市が国庫補助を受けて実施した。調査対象地内を踏査し、土器や石器等の遺物の採集や石造物の確認を行い、その地点を地図に記録して分布状況を把握した。採集された遺物は、洗浄後、注記・実測などの記録作業を行つた。

今年度の調査報告は上野方地区を中心に実施した。なお、調査対象範囲内に所在する周知の埋蔵文化財は第1表のとおりである。

第1表 調査対象範囲及び周辺における周知の埋蔵文化財包蔵地

遺跡名	所在地	種別	主な時代		現況
			縄文（中期）	室町	
204048 宮津A遺跡	宮津	散布地	縄文（中期）	室町	田
204049 湯上B遺跡	湯上	集落	弥生（後期）	古墳（前期）	道路
204050 湯上C遺跡	湯上	散布地	弥生（後期）	—	道路
204051 湯上A遺跡	湯上	散布地	縄文	—	畑
204053 大谷遺跡	大谷	散布地	弥生か	—	畑
204055 石垣平A遺跡	石垣平	散布地	旧石器・縄文・中世	—	畑
204056 石垣平B遺跡	石垣平	散布地	縄文	—	畑
204072 大曾沼遺跡	大曾沼	散布地	縄文（中期）	—	田
204109 石垣平C遺跡	石垣平	散布地	縄文・近世	—	墓



第1図 平成27年度調査対象範囲（縮尺1/30,000）

III 調査の概要

(1) 遺跡の概要

今回の調査対象地には周知の遺跡として9か所が確認されている。これまで上野方地区周辺の全域を対象とした遺跡の詳細分布調査は実施されておらず、未発見の遺跡があるのか遺跡が希薄な地域であるのか不明であった。今回の調査では、新規の遺跡の存在を示す遺物の分布等を確認することはできなかったが、現段階では遺跡の希薄な地域であると判断されたことは重要である。遺跡の位置は第2、3図に図示した。以下、遺跡ごとに概要を記す。

遺跡名 宮津A遺跡(みやづAいせき)

遺跡番号204048 周知 所在地 魚津市宮津 種別 散布地

現況 田 時代 繩文(中期)・室町

概要

角川の右岸で、支流によって形成された舌状台地の先端に位置し、河口からはおよそ2.5km上流である。昭和44年(1969)の分布調査によって発見され、昭和47年(1972)に圃場整備によって破壊された。過去に繩文時代中期の土器や打製石斧、磨製石斧、石錘、砥石、石鏃等が採集されている。昭和55年(1980)には北陸自動車道建設に伴う試掘調査が富山県教育委員会によって行われたが、調査の結果、遺物や遺構は確認されなかった。圃場整備に伴う旧地形の大規模な改変か遺跡の範囲外であった可能性が指摘されている。

遺跡名 湯上B遺跡(ゆのえBいせき)

遺跡番号204049 周知 所在地 魚津市湯上 種別 集落

現況 道路・山林 時代 弥生(後期)・古墳(前期)

概要

角川右岸の野方台地西端に位置し、標高60~70m、平野部との比高差は40~50mである。現在の北陸自動車道下り線の有磯海サービスエリア一帯が遺跡である。北陸自動車道建設に先立ち、昭和55年(1980)と昭和56年(1981)に発掘調査が行われた(富山県教育委員会1982)。調査の結果、弥生時代後期末から古墳時代初頭の竪穴住居跡3棟、古墳時代前期の竪穴住居跡1棟が確認されている。魚津市においては数が少ない弥生時代と古墳時代の遺跡である。

このほか、平安時代に属する可能性がある掘立柱建物跡、繩文土器や弥生時代中期の土器、珠洲焼等の中世の遺物が確認されている。

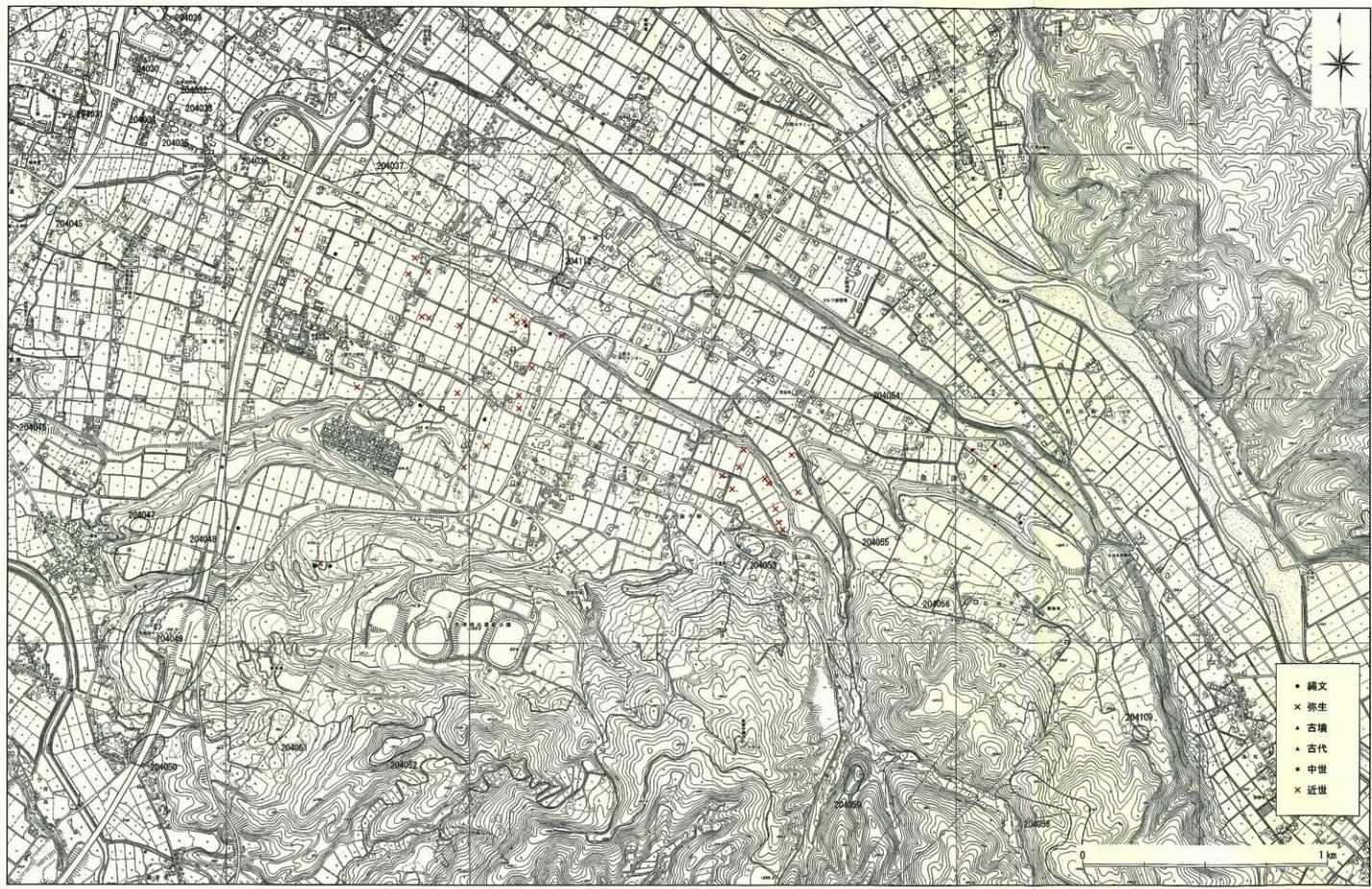
遺跡名 湯上C遺跡(ゆのえCいせき)

遺跡番号204050 周知 所在地 魚津市湯上 種別 散布地

現況 道路・山林 時代 弥生(後期)

概要

湯上集落の東側の丘陵に位置し、標高は38~41mである。遺跡は古くからその存在が知られている。北陸自動車道の建設に先立って昭和48、49年(1973、1974)に分布調査が実施され、古墳時代の遺跡と確認された。昭和55年(1980)に試掘調査が実施されたが、遺物の出土はな



第2図 分布調査結果概要図1（縮尺1/15,000）

- | | | | | |
|-------------|--------------|--------------|-------------|-------------|
| 204029本江A遺跡 | 204030本江B遺跡 | 204031本江C遺跡 | 204032本D遺跡 | 204033本江九塚 |
| 204034本江塚跡 | 204035本江灰塚 | 204036四ツ塚 | 204037印田遺跡 | 204046宮津B遺跡 |
| 204048宮津A遺跡 | 204049湯上B遺跡 | 204050湯上A遺跡 | 204051湯上A遺跡 | 204047宮津C遺跡 |
| 204054石垣遺跡 | 204055石垣平A遺跡 | 204056石垣平B遺跡 | 204057大谷尾根脇 | 204052室田岱 |
| 204059佐伯遺跡 | 204109石垣平C遺跡 | 204112石垣新遺跡 | | 204053大谷遺跡 |

く、遺構も確認されなかった。地元の話では、過去に重機による開墾が行われたとのことである。

遺跡名 湯上A遺跡(ゆのえAいせき)

遺跡番号204051 周知 所在地 魚津市湯上 種別 敷布地

現況 煙 時代 縄文

概要

北陸自動車道下り線の有磯海サービスエリア南側の丘陵上にある遺跡である。かつて縄文土器が採集されたとのことであるが、詳細は不明である。

遺跡名 大谷遺跡(おおたにいせき)

遺跡番号204053 周知 所在地 魚津市大谷 種別 敷布地

現況 煙 時代 弥生か

概要

野方台地の東端に位置する。過去に磨製石剣が採集されている。今回の調査では、大谷遺跡及びその周辺での遺物は確認されず、詳細は不明である。

遺跡名 石垣平A遺跡(いしがきだいらAいせき)

遺跡番号204055 周知 所在地 魚津市石垣平 種別 敷布地

現況 煙 時代 縄文

概要

片貝川右岸の上位段丘上に位置する。過去に鉄石英の剥片・碎片、頁岩の石刀・碎片が採集されている。頁岩製の石器は、旧石器時代に属すると考えられており、市内では数少ない旧石器時代の遺跡である。

遺跡名 石垣平B遺跡(いしがきだいらBいせき)

遺跡番号204056 周知 所在地 魚津市石垣平 種別 敷布地

現況 煙 時代 縄文

概要

片貝川右岸の上位段丘上に位置し、石垣平A遺跡の南東側に所在する。これまでに縄文土器の細片が採集されているが時期等の詳細は不明である。

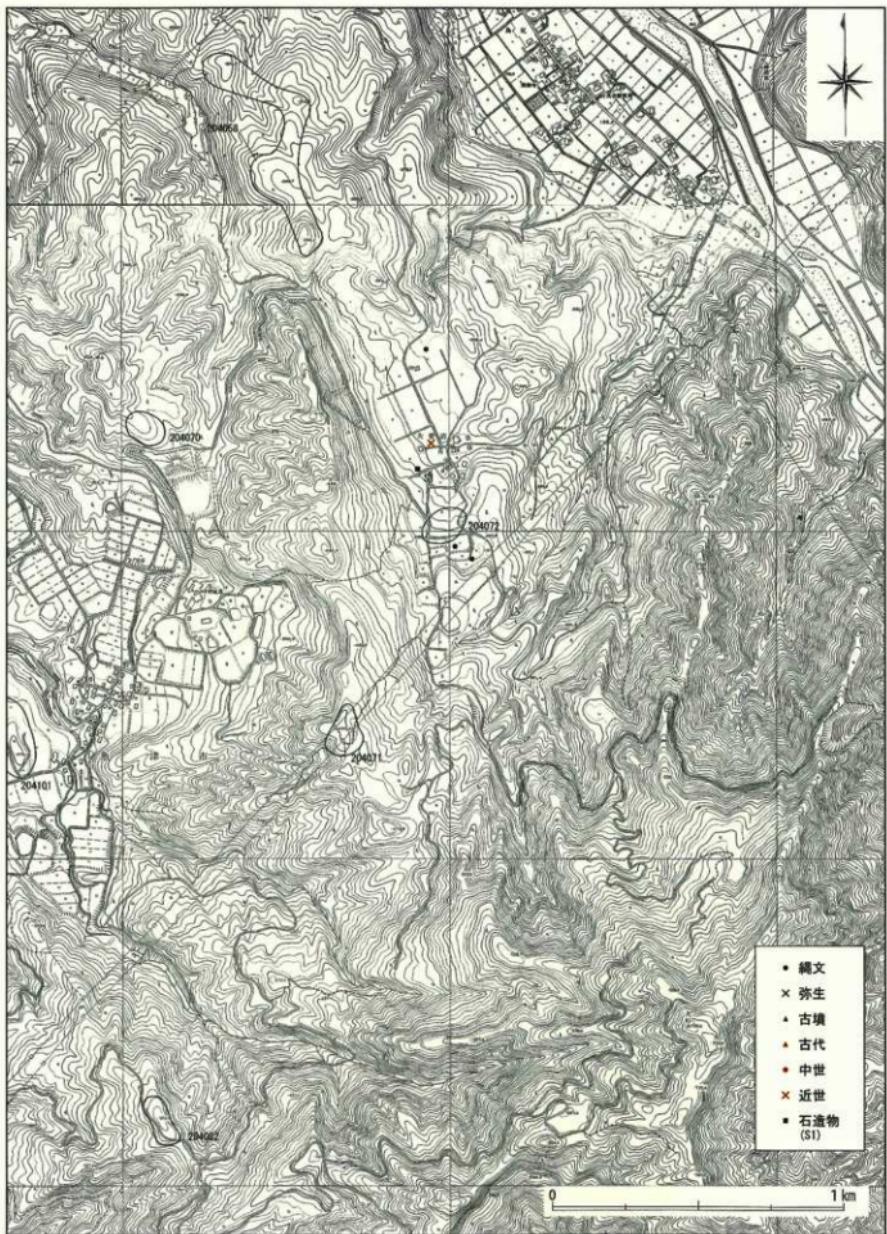
遺跡名 大菅沼遺跡(おおすがぬまいせき)

遺跡番号204072 周知 所在地 魚津市大菅沼 種別 敷布地

現況 田 時代 縄文（中期）

概要

大菅沼集落の南東側に位置し、縄文時代中期中葉の土器が採集されている。昭和40年代頃に圃場整備が行われ、遺跡は破壊されたとのことである。なお、北側の集落内にある墓地内には、



第3図 分布調査結果概要図2 (縮尺1/15,000)

204058大谷尾根砦
204072大苔沼遺跡

204070荒惣山砦
204082やせもり砦

204071坪野城跡
204010坪野遺跡

大型の石棒が置かれている。大普沼遺跡で出土したものではないかと推定されている。

遺跡名 石垣平C遺跡(いしがきだいらCいせき)

遺跡番号 204109 周知 所在地 魚津市石垣平 種別 敷布地

現況 墓 時代 繩文・近世

概要

片貝川右岸の上位段丘上の台地東端に位置し、石垣平B遺跡の東側に所在する。現状は墓地である。ここは、戦国時代から明治時代にかけて片貝地区において豪農として栄えた伊藤刑部の墓地もある。

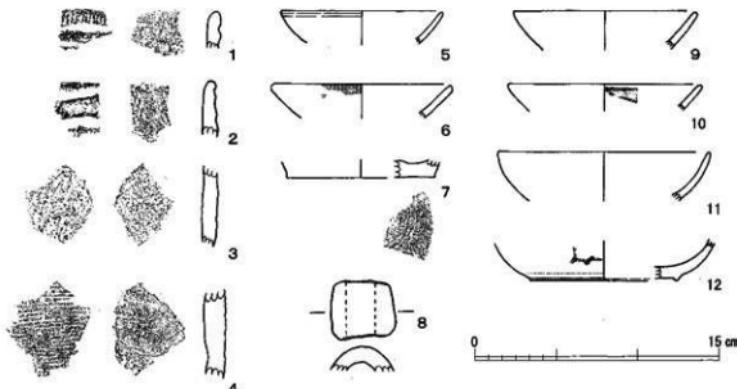
(2) 主な採集遺物

今回の分布調査では、20地点で約100点の遺物が採集された。調査対象面積に比べ、採集された遺物は少なく、また、遺物の多くは近世以降の陶磁器類が中心であった。以下に、本報告に掲載した遺物についての概要を記述する。

採集遺物

1～3は繩文土器である。1は口縁短部外面に刻み目文を施す。2は外面に凹線が2条確認できる。3は内外面とも摩滅し、調整方法は不明である。4は珠洲焼の甕か壺の胴部片である。外面は叩き目が確認でき、内面はナデ調整である。5～8は越中瀬戸焼である。5・6は皿で、5は口径10.0cmで内外面に釉薬を、6は口径10.8cmで外面のみに釉薬を施す。7は壺の底部片で、底部径9.1cmを測る。内外面ともロクロナデ調整で、底部切り離しは回転糸切りである。8は陶鉢である。全体の約3分の1が遺存する。長さ3.6cm、幅3.8cm程度を測る。9～12は近世磁器である。9は口径11.0cm、10は11.8cm、12は13.0cmを測る。12は底部片で、底径9.0cmを測る。

石製品については、打製石斧が野方台地西側で1点、磨製石斧が大普沼遺跡の南側で1点、採集された。打製石斧については、付近に縄文時代の遺物の分布状況がみられず、打製石斧の



第4図 遺物実測図（縮尺1/3）

み単独の採集であった。また、大昔沼遺跡周辺の墓地で確認した石棒は、立てた状態で設置されており（第3図・図版3）、長さ70～100cmと推定される。

IV まとめ

今年度の調査対象地は、角川右岸の野方台地を中心とした上野方地区であった。調査対象地内は整然と圃場整備された田んぼが広がっている。圃場整備の及んでいない山裾付近ではいくつか周知の埋蔵文化財包蔵地が確認されているものの、台地の大部分を占める田んぼでは埋蔵文化財包蔵地はなく、今回の詳細分布調査でも中世以前のまとまった遺物の散布状況等はみられなかった。

この野方台地には江戸時代の新田開発に伴い新たに開削された新江（荒井）用水がある。この用水は、野方台地西側の大海寺野の開拓を目的として開削されたもので、寛文12年（1672）9月に着工し、延宝6年（1678）4月に竣工した。片貝川上流の平沢を取水口とし、山間を貫き、延長8kmの通水路であった。その結果、大海寺野一帯で約2,000石の新田が開発された。

このように野方台地の大部分は、江戸時代以降、田畠に利用に際し、開発されてきた経緯がある。これまでの開発により遺跡が削平ないし埋没している可能性もあり、田んぼの畦や法面、川や用水の法面等にも注意を払いながら調査を実施したが、遺跡の存在を示すような遺物の分布状況はみられなかった。むしろ、今回の調査では近世の遺物が多く採集されており、江戸時代以降の新田開発とともに新しく村が起り、今日に至ることを示しているのではないかとも考えられる。

今年度は、埋蔵文化財分布調査の3年目である。次年度以降も調査を重ね、市内の遺跡の分布状況の確認や周知の遺跡の詳細把握に努めていきたい。

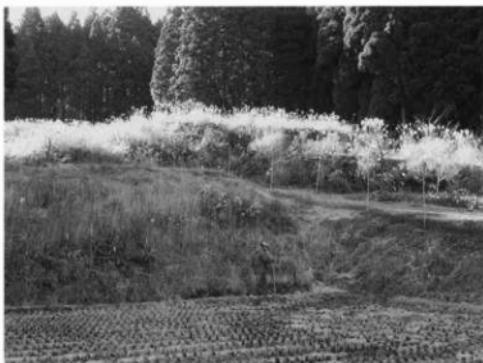
参考文献

- 魚津市史編纂委員会 1968 『魚津市史 上巻』魚津市役所
- 魚津市教育委員会 1973 『魚津市埋蔵文化財 遺跡分布調査報告書』
- 魚津市教育委員会 1981 『富山県魚津市 佐伯遺跡 県道拡張に伴う緊急調査報告』
- 魚津市教育委員会 1981 『富山県魚津市印田近世墓』
- 魚津市教育委員会 1882 『富山県魚津市早月上野遺跡』
- 魚津市教育委員会 1983 『富山県魚津市早月上野遺跡』
- 魚津市教育委員会 1983 『富山県魚津市遺跡分布調査概要Ⅰ』
- 魚津市教育委員会 1984 『富山県魚津市遺跡分布調査概要Ⅱ』
- 魚津市教区委員会 1985 『富山県魚津市遺跡分布調査概要Ⅲ』
- 魚津市教育委員会 1997 『富山県魚津市出遺跡発掘調査報告書』
- 魚津市教育委員会 1997 『富山県魚津市山下Ⅱ遺跡発掘調査報告書』
- 魚津市教育委員会 2000 『富山県魚津市吉野遺跡発掘調査報告書』
- 魚津市教育委員会 2014 『富山県魚津市埋蔵文化財分布調査報告1』
- 魚津市教育委員会 2015 『富山県魚津市埋蔵文化財分布調査報告2』
- 魚津市史編纂委員会 2012 『図説 魚津の歴史』魚津市教育委員会
- 富山県教育委員会 1982 『北陸自動車道遺跡調査報告』

写 真 図 版



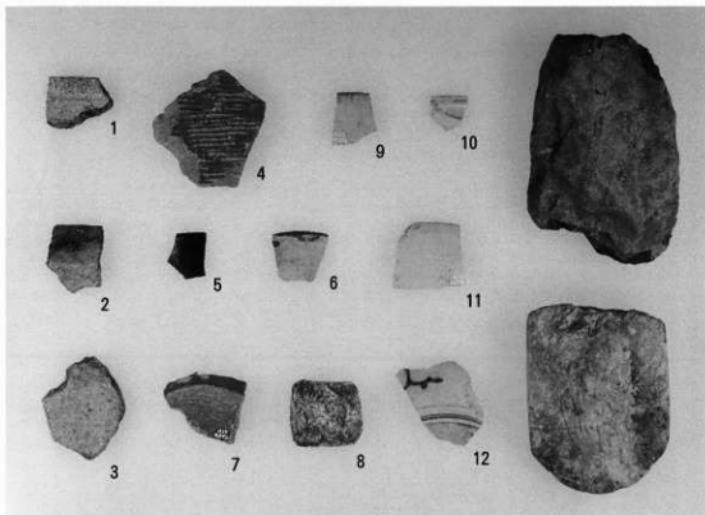
作業風景



作業風景



大菅沼地内の石棒



遺物写真

報告書抄録

ふりがな	とやまけんうおづまいぞうぶんざいぶんぶちょうさほうこくさん							
書名	富山県魚津市埋蔵文化財分布調査報告3							
シリーズ名	魚津市埋蔵文化財分布調査報告							
編集者名	的場茂晃							
編集機関	魚津市教育委員会							
所在地	〒937-0066 富山県魚津市北鬼江313-2 TEL0765-23-1045							
発行機関	魚津市教育委員会							
所在地	〒937-0066 富山県魚津市北鬼江313-2 TEL0765-23-1045							
発行年月日	西暦2016年3月17日							
所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号	°	°			
市内遺跡	富山県 魚津市 内地	16204	—	° ° °	° ° °	151125 151210	—	—
所収遺跡名	種別	主な時代		主な遺構		主な遺物		特記事項
市内遺跡	—	縄文時代 中世 近世		—		縄文土器・土師器・ 瀬戸美濃焼・越中瀬戸焼・近世陶磁器		—

富山県
魚津市埋蔵文化財分布調査報告 3

発行日 平成28年3月17日
編集・発行 魚津市教育委員会
〒937-0066
富山県魚津市北東江313-2
TEL (0765) 23-1045
印 刷 魚津印刷株式会社